

# 時計・教育事業の拡大と 事業構造改革により収益性の改善を図ります。



代表取締役 会長  
樫尾 和雄



代表取締役 社長  
樫尾 和宏

## 当上半期の実績

当上半期の売上高は1,535億円、営業利益は146億円となり、親会社株主に帰属する四半期純利益が前年同期比56%増の大幅増益となりました。時計事業は高価格帯のGPS、電波、スマートフォンリンクの3Wayの「G-SHOCK」や、中価格帯のBluetooth®でスマートフォンと連携する「G-STEEL」の新製品効果で好調に推移しました。教育事業は海外の新入学向け関数電卓が好調に推移し、電子辞書も堅調に推移しました。楽器は生産体制の整備が進み、生産性が向上しました。システムセグメントは構造改革が効果を発揮し黒字となりました。

## 今後に向けた下半期の重点戦略

時計事業は来年の「G-SHOCK」誕生35周年を契機にマーケティングを強化し新市場を創造します。商品では「G-SHOCK」の記念モデルシリーズを含むラインアップを拡充し、高価格帯の3Wayモデルを本格的に拡大します。中価格帯では「G-STEEL」および「EDIFICE」のラインアップを拡大します。営業戦略では「G-SHOCK」の35周年記念イベントにおけるグローバル商談会を通じて、他ブランド品目の認知度も向上します。また、全世界の若者ファンの拡大に向けたSNSによる情報発信を進めてまいります。

### 第2四半期連結累計期間の業績

売上高	153,528百万円	前年同期比 98.0%
営業利益	14,639百万円	前年同期比 108.6%
経常利益	13,654百万円	前年同期比 166.0%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	9,953百万円	前年同期比 155.8%

教育事業では、強い「GAKUHAN」のビジネスモデルで関数電卓・電子辞書の事業拡大を行います。カラーグラフ関数電卓を先進国を中心に拡大し、海外では未開拓市場の拡大を加速します。11月には英会話学習ツールの新製品を投入しました。また通信教育業者や英語対応能力検定協賛会社などの、非店舗流通の開拓によるBtoBの拡大も目指します。

さらに事業拡大と事業構造改革に向けて、強い技術を融合させた新製品の開発、また事業統合による効率化を強力に推進します。電子楽器は電子キーボードの事業強化を図ります。自社生産体制の強化により安定的な高品質の製品供給とコスト体質の改善を図ります。ラインアップを見直し、モデル数を半分に絞り込んで収益力を強化し、多様な音楽に対応する新音源を開発します。

デジタルカメラでは、耐衝撃・防水・防塵等の機能を備えた新製品「G'z EYE」により第二の独自ジャンルの確立を目指すとともに、業務用を含めた用途開発による新市場を創造します。また第一の独自ジャンルとして確立した自撮り専用機のTRシリーズでは、化粧用コンパクトのようなスタイルの「TR Mini」によりラインアップを拡充し、他社製品の追随を許さない先進的機能の開発によりユニークな自撮り文化の完成度を高めます。

システム事業では、ハンディターミナルや電子レジスターなどを主軸に収益力を増強します。

新規事業では、「2.5Dプリントシステム」などの新事業を早期に立ち上げます。世界初の電磁波造形技術により、布や

石や皮などの素材感を持つ試作品を従来より大幅に短い時間で出力できる「2.5Dプリントシステム」は、10月に開催されたアジア最大級のITとエレクトロニクスの国際展示会「CEATEC JAPAN」でその革新性と市場性を高く評価され、初のトリプル受賞を果たしました。自動車、建材、アパレルなど、国内外の幅広い業種の企業からの引き合いが急増しており今年度内に受注をスタートする予定です。

## 株主の皆さまへのメッセージ

当社は業績に連動した株主還元という方針の下、経営体質の強化を確実に進めてまいります。株主の皆さまへの配当については安定配当を基本方針としており、今回の中間配当の額は20円とさせていただきます。今後も株主の皆さまのご期待に沿えるよう、経営の改革に全力を尽くしてまいります。

配当金の推移

